

第2章 「福祉・ホースセラピーに活用されている馬」

福祉・セラピー

次の一手を見据えたホースセラピー

特定非営利活動法人

障害者のための馬事普及協会（ピルエット）

利用者も運営者も自立し、生活が保障される活動とは



活動の概要

90年代半ば、井原夫妻（小児科医の夫、障害飛越をやっていた妻）の「子どもの声を拾う場がほしい」との思いから、1頭の馬で一か月40名を対象に活動を開始。当初「楽しく集まって乗れば」と始めたが、組織化の必要性が生じ、平成15年にRDA宇都宮設立。平成23年、現在の名称に変更。

心身に障がいやストレスを持つ人々を対象に、「馬によるセラピーとカウンセリング、騎乗に係わる指導者の養成、障がい者等の乗馬に関するイベント開催などの事業を行い、障がい者等の健康や暮らしの向上を図る」ことを目的とした活動を医師、理学療法士、作業療法士等の専門家との綿密な連携のもとに実施している。年間約3,000名のレッスンを行っている。障がい者のレッスン対象者としては、中途障害者（脳卒中など）、脳性麻痺、発達障害、側弯症などが含まれ、年齢は4歳～30歳代が多い（中高年齢者も人数は少ないが存在する）。日常の乗馬レッスン活動には健常児や成人も含まれる。また、馬による一般社会人のメンタルケア事業も行っている。

地元の医療関係団体、教育・研究機関等の協力を得ることで、団体としての社会的立場も高まっている。また、研究データの蓄積と解析を常時行っており、学会での発表も行っている。

個々の対象者の障がいの程度、対象者に現在適

用されている医療内容の把握、身体的・精神的変化の科学的・客観的評価と目標設定を絶えず行いながら、もっともふさわしいセラピーを行えるよう配慮している。

(*) 前後、左右、上下の運動要素を解析できる小型歩行測定機器を協力者の身体に装着し、乗馬前後の歩行の変化を長期にわたって計測している。このようにして得られたデータには検証を加え、学会や学術誌で積極的に発表している。

○営業時間：基本として10時～15時（季節によって多少変動する）

○利用料（騎乗料）：1,000円/10分（会員は20分×4回、8,000円/月）

○繋養馬：6歳から25歳までの23頭。品種はトロッター、北海道和種馬、ウェルシュ、ハフリンガー、ミニチュアポニー、アラブ、半血、サラブレッドなど。「障がい者のための乗馬」に向いている種類、年齢、性別というのではなく、あくまでも個体によるという見解。発達障害、自閉傾向の子どものレッスンでは3頭のサラブレッドが活躍している。

毎年、当地で開催される栃木県乗馬大会では、この日のために練習を積んできた成果を披露する緊張感もさることながら、時間をかけて丁寧に行われる手作りの表彰式が、参加者の自己肯定感を高める上で重要な機会になっていることがうかがえる。



大会スタッフの声に誘導されて演技する全盲の選手



競技後の感動の表彰式



表彰式で選手一人一人を祝福するスタッフ

「たてがみ」は、農業班、支援班、馬班、グループホーム班という4つの班で構成されており、乗馬インストラクターは「馬班」に所属する。農業班では馬の堆肥を使って周辺の畑で優良な作物を育て、複数のデパート、レストラン、市場に出荷しており、その収入も大きな支えとなり、職員に水準以上の給与を支払うことができているとのこと。



馬の堆肥利用による農作物の収穫



クラブハウスで展示・販売されているたてがみメンバーの作品

OB型就労支援施設「たてがみ」との連携

連携する法人「たてがみ」が国の制度による就労移行支援事業所として指定を受けており、乗馬による障がい者の機能訓練にとどまらず、就労・自立にまで取り組みを進めている点がピルエットの活動の中で最も特筆すべき点である。

活動体制

会員40名、インストラクター4名^(*)、ボランティア登録80名(宇都宮大学、東京農業大学からの研修生の受け入れもあり)で運営されている^(**)。
^(*)4名のインストラクターは連携施設である「たてがみ」から給与が支給されている。^(**)大学との連携

第2章 「福祉・ホースセラピーに活用されている馬」

により研修生を受け入れ、指導者資格制度は安全確保を最重要課題とし、不断の研鑽により高い質を担保する努力を行っている（表を参照）。

年間予算は1,000万～2,000万円。収入の90%が騎乗料、10%が寄付。支出は馬の装蹄料、餌代、治療費など。

施設の概要

主な施設として、角馬場2面、丸馬場1面、2階建てクラブハウス・事務所、厩舎2棟がある。（角馬場のうち1面には砂ではなくゴムリングを敷き詰めている。滑りにくくクッション性がある、馬の足に優しい、風で飛ばされない、埃が立たないといった利点がある。）



採光が工夫されている明るい厩舎



クッション性に配慮された馬場と周囲の穏やかな田園風景

背景(地域連携、展望等)

ピルエットは、JR 宇都宮駅より直線距離で北東約5kmの田園に囲まれた穏やかな風景の中にある。地勢は広大で肥沃な関東平野のほぼ北端に位置し、地域の南北には東北新幹線、東北自動車道が、東西には北関東自動車道などが市内を貫き、北関東の中核地点となっている。この首都圏からのアクセスの良さは、開設当初、すでに千葉、横浜で馬に乗っていた人々が続々集まってきた遠因と言っていいだろう。喧噪や車両の行き来に邪魔されることなく、安心、集中して日々の活動に取り組める環境にある。

ピルエットは、これまで地域の教育機関や医療機関との連携を進めて、地域社会に貢献することを目指しているが、今後も意欲的な活動が期待されている。また、障がい者以外にも精神的なリフレッシュを求める一般社会人も少なくないことから、地域における受け入れ施設としての役割も期待される。

以下の点で当面の目標を掲げている。

1. インストラクターの養成

障がい者乗馬インストラクターおよび補助者の学習の基本となるテキストとして『すべての障害者のための乗馬ガイドライン』を5年前に完成し、運用を始めた。誰が教えても中身がぶれないように、すべてを文章化しており、「共通言語」「客観的指標」の整備を進めている。日本全体で考えるなら複数の団体が資格制度を持ち、互いに良さを出し合って補完することにより、この分野の発展が望めるものと考えている。

2. 安心して仕事ができる環境づくり

若い人がこの分野を職業として選ぶことができ、安心して仕事ができる強固な体制・仕組み作りの一つのモデルとなれるよう努力する。

3. 医療保険の適用に向けての取り組み

利用者の経済的負担を軽減する上で、障がい者乗馬を医師の診断のもとで実施される補完医療として位置づけ、医療保険の適用に向けた努力が必要と考えている。

本施設は医療との連携面やホースセラピーと農業を通じた障がい者の自立支援など、障がい者乗馬施設の運営面で参考となるモデルケースといえる。



乗馬大会参加者の様子

(表) 指導者のステージ

STAGE	受験要件とレベル、役割
1	サイドウォーカー：2年以上の経験者
2	サイドウォーカー：2年以上、リーダー：2年以上の経験者
3	サイドウォーカー：2年以上、リーダー：2年以上の経験者 乗馬…常歩、速歩ができる。
4	サイドウォーカー3年以上。リーダー2年以上。乗馬…駈歩が出来る。
AI	レッスン指導体験2年以上、レッスンプランの作成ができる。乗り手についての簡単な医療の知識、乗馬…調馬索、馬運動ができる。
II	AI取得後レッスン指導3年以上、レッスンプラン作成ができる。研修生の指導育成経験がある。乗馬…馬調教、馴致ができる。*STAGE 1～AIの資格をSI立ち合いのもと与える事が出来る。
SI	レッスン指導10年以上、II取得後5年以上。AI・IIの指導育成経験、ファームマネジメントの知識 *資格を与える事は出来ないが全ての認定資格試験合否の決定権を持つ。

AI: Assistant Instructor, II: Intermediate Instructor, SI: Senior Instructor